

自分をできる子にする言葉 「困っているから教えて」

12月23日、体育館で2学期の終業式を行いました。始業式から運動会や音楽会、マラソン記録会などの学校行事が続き、また学習内容も充実しており、子どもたちの服装が半袖から防寒着へと変化したことから長い2学期だったと思います。

8月26日の始業式では、「ファーストペンギン」の話をしました。難しいことやはじめてのことにも自分から挑戦・チャレンジする子になってほしいと伝えました。子どもたちは数多くの挑戦やチャレンジする姿をみせてくれました。中には成功したことだけではなかったかもしれません。ただ、先生方の通知

票の所見欄を読んでいますと、子どもたちが自分から挑戦したことをしっかりと評価し、その中で成長したことをお家の方々に伝えてくれていました。

また、先生方も新たな授業スタイルや自主的な授業公開をはじめ多くのチャレンジをしてくださいました。多くの方に学校訪問頂いた時のですが「子どもたちと先生方の関係がいいですね」とおっしゃっていただき、本当にうれしい限りです。



こうした関係のよさが、子どもたちも先生方もお互い高め合っているいろんなことに挑戦やチャレンジできたのではないかと感じています。

終業式では、みんなができるようになったのは、「どうせむり」「だって〇〇やもん」「〇〇さんが悪いんや」などマイナス

の言葉を言わなかったからだと思うこと。また左のプレゼンのように、私が子どもたちから学んだ『自分をできる子にする言葉』について伝えました。

こまったときやふあんなときでも

じぶんをできる子にすることは

先生やともだちにじぶんから

「こまっているから

おしえて」